

平成 21 年 5 月 22 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2008

課題番号：18330071

研究課題名（和文） 市場経済形成期日本における村落の共同性の実証研究

研究課題名（英文） An Empirical Study of the village Community in Early Modern Japan.

研究代表者 長谷部 弘（HASEBE Hiroshi）

東北大学・大学院経済学研究科・教授

研究者番号 50164835

研究成果の概要

本研究は、近世日本の村落の共同性が市場経済の歴史的な形成過程においてどのような構造をもっていたのかを実証的に明らかにしようとしたものである。旧上塩尻村（長野県上田市）の事例研究をベースとして、従来の村落研究の再評価と旧和納村・旧中郷屋村（新潟県西蒲区）の村落調査（継続中）を実施し、近世村落社会が、支配行政的、社会経済的、同族家連合的な共同性の重層的構造をもち、市場経済化とともに再編された事実を確認し得た。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2007年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
2008年度	5,600,000	1,680,000	7,280,000
年度			
年度			
総計	14,200,000	4,260,000	18,460,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済史

キーワード：共同性、村落共同体、市場経済、上田、上塩尻村、蚕種業、養蚕業、家と村

1. 研究開始当初の背景

本研究を含む研究構想の全体は、すでに研究代表者（長谷部）が実施してきた日本、イギリス、インドネシア（バリ州）という3つ社会における各種コミュニティ組織の実態調査分析「市場経済形成期におけるコミュニティ組織の存在形態」（科研費平成13年企画調査・平成14～16年基盤研究B）の成果を前提として組み立てられた。

そこでは、日本の事例として、長年にわたって実施してきた長野県上田市旧上塩尻村

のモノグラフィックな歴史的実態調査分析に依拠して次のような仮説を立てた。すなわち、近世後期から近代初期（18世紀後半から19世紀後半にかけて時期）という市場経済形成期の日本では、近世藩政村落内に、領主支配、社会生活、経済生活、同族の家連合といったレベルで多層構造を持つ村落の共同性が存在しており、これまで「村落共同体」とか「自然村」といわれてきたものとは異なる村落社会の実態があったのではないかと、という内容である。しかし、本研究開始当初の段

階では、1950年代の村落実態調査研究の蓄積を除けば、関連する実証研究がほとんどなく、仮説を実証的に深化させ、一般化させるためには、同種のモノグラフィックな村落調査研究を複数進める必要があった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、近世後期から明治維新を経て工業化の時代へと連なる一連の日本の近代化=市場経済化過程において農村社会に広く「残存」していたとされる「村落共同体」をとりあげ、その本来の構造、性格、歴史の変容を複数のモノグラフィックな調査分析によって実証的に明らかにしようとするところにあった。(周知のように「村落共同体」という用語は論者によって意味する内容がまちまちである。本研究では種々の誤解を避ける意味で、村落社会におけるさまざまな社会経済的な関係にみられる「共同」の性格をあらわすものとして「村落的共同性」という用語を意図的に用いた)。

この研究自身は日本の事例研究であるが、背景にある国際的比較研究という全体構想の中で、比較のための<準拠枠>ないし基準を整備するという役割を持たせた。構想としての国際的比較研究の目的は、村落的共同性が市場経済化に際して果たした一定の経済的機能・役割を明らかにするところにおかれ、その作業を通じて、市場経済化の「先進国」である英・独・仏といった西欧社会の歴史的経験をはじめ、現在進行形でグローバル市場経済化が進みつつある東南アジア諸地域の現状ないし歴史的経験に即して多面的な比較検討を試みようとするものである。

3. 研究の方法

本研究でとった研究方法は、オーソドックスな歴史学的な史料調査と資料分析を中心とする実証作業がベースであった。先行して進めていた長野県上塩尻村共同研究プロジェクトの成果として得られた<村落的共同性の多層構造>の視点を手がかりとして、同村の調査と実証分析作業を進めると同時に、1950年代に実施された村落研究の見直しを行うため、岩手県紫波郡矢巾町(旧煙山村)、長野県諏訪郡岡谷市(旧今井村)の研究蓄積を検証し、残存史料の確認と再調査を実施した。また、新たに割地制度の実施された水田単作地帯でかつ豊富な村落史料の残存する新潟県西蒲区(旧巻町和納村・中郷屋村)の調査を実施することによって一般化を図ろうとした。

独自の研究上の手法として主張できるの

は、第一次史料を網羅的にデジタル撮影し、作成した目録と連携つけた史料DBを作成し本研究のためのデジタル・アーカイブを作成した点である。これによって、残存する村落史料全体を体系的に展望しながら実証分析作業を効率的に進める手法を確立しえた。ただし、この作業には予想外の時間と労力を必要としたため、上塩尻村以外の事例では、アーカイブ作成作業は部分的に利用できるところまで進んだが、まだ作成途上であり、未完成である。

4. 研究成果

村落社会のもつ重層的な共同性の構造について、以下のような事実を実証的に確認できた。

(1)近世において自然村や村落共同体とみなされてきた「村」は支配行政(藩政村、制度村)という村落的共同性の一部を担う制度組織である。この制度組織で作成された村政文書資料は支配上のバイアスを含み、社会生活や経済生活、同族的家連合などの共同性の構造とは位相を異にする。

(2)日本の場合、一般的な歴史的経路として、市場経済化の進展とともに家連合や経済社会生活上の共同性の構造が順次解体・分散し、それらを支配行政上の共同性が代替しつつ、明治維新後の近代的な地方行政制度の内部組織へと埋め込まれる、という傾向を指摘する。

(3)日本の事例をもとにして構成した重層的な村落的共同性の構造モデルは、幾つかの近世村落社会の構造を読み解く際に有効であり、また一般性をもつ。この視点から近世から近代にかけての「市場経済形成期」における全国七万余の村々を分析することによって、従来一括して「共同体」として処理されてきた村落的共同性の構造についてより分析的な作業を推し進めることが可能であることが判明した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

長谷部弘「大区小区制下の村 - 長野県小県郡上塩尻村の事例にみる<村>の連続と非連続」〔2007年12月、コミュニティ・自治・歴史研究会『ヘスティアとクリオ』Vol.6、pp.33-54、単著、査読有〕

高橋基泰「共同墓地から見た近世・近代期イギリス教区・コミュニティ・住民自治

日本の事例との比較を前提に」〔2007年12月、コミュニティ・自治・歴史研究会

『ヘスティアとクリオ』Vol.6、pp.55-76、
単著、査読有]

長谷部弘「2005年における村落研究動向
- 経済史」(日本村落研究学会年報『村落社
会研究』第42集、2006、pp.251-263、査読
有)

高橋基泰「英国検認遺言書考-日英村落
史的対比研究の途上にて-」(比較家族史学
会『比較家族史研究』20号、2006年、
pp.1-41、査読有)

【学会発表】(計 14 件)

Hiroshi Hasebe, *Growth of Rural Trading
and the Business in the Tokugawa Japan, A
Case Study of Kami Shiojiri Village*,
Cambridge Symposium Rural Community in the
Tokugawa Japan, Feb.16, 2009

長谷部弘「旧上田藩上塩尻村地域：治水を
めぐる藩と村」(テーマセッション「市場経
済形成期の村落社会と地域環境の制御・共
生」報告)社会経済史学会第77回全国大会、
2008年9月28日、於広島大学経済学部。

長谷部弘「近世後期における蚕種取引の市
場構造 信州上田佐藤前右衛門家・嘉平治家
の事例分析」社会経済史学会第77回全国大
会、2008年9月27日、於広島大学経済学部

Hiroshi Hasebe, *Rural Resources
Management at the Tempou-Famine in the
Tokugawa Japan*, World Congress of Rural
Sociology, July 7, 2008, Goyang, Korea.

Motoyasu Takahashi, *Basic Demographic
Data From the Shumon Aratame-cho of
Kami-shiojiri Village, Ueda, Nagano*,
World Congress of Rural Sociology, July 7,
2008, Goyang, Korea.

Yoshiyuki Murayama and Futoshi Yamauchi,
*Arable Land Use Change at the Early Modern
in Japanese Village*, World Congress of
Rural Sociology, July 7, 2008, Goyang,
Korea.

Hiroshi Hasebe, *Family Succession and
Inheritance Strategies in Tokugawa Japan,
a case study on Kaheiji- Sato's IE in the
village of Kami Shiojiri*, European Social
Science History Conference, February 27,
2008, Lisbon, Portugal

長谷部弘「日本における近世村落の共同性
を再考する」(テーマセッション・コーデ

ネーター) 日本村落研究学会第55回大会、
2007年12月2日、於鹿児島県南大隈町中央
公民館(南大隈町役場隣接施設)

平井進「ヨーロッパ農村社会史研究と共同
体再考」日本村落研究学会第55回大会、2007
年12月2日、於鹿児島県南大隈町中央公民
館(南大隈町役場隣接施設)

山内太「近世村落社会における共同性の諸
相」日本村落研究学会第55回大会、2007年
12月2日、於鹿児島県南大隈町中央公民館(南
大隈町役場隣接施設)

高橋基泰「歴史の実態としての共同性再発
掘」日本村落研究学会第55回大会、2007年
12月2日、於鹿児島県南大隈町中央公民館(南
大隈町役場隣接施設)

長谷部弘「近世日本における制度村の機能
と村落的まとまり」日本村落研究学会第54
回大会、2006年11月4日、(単独) 於愛知
県北設楽郡東栄グリーンハウス。

山内太「村再考 - むらのまとまり」日本村
落研究学会第54回大会、2006年11月4日、
(単独) 於愛知県北設楽郡東栄グリーンハウ
ス。

高橋基泰「旧上田藩上塩尻村宗門改帳から
の人口動態基本情報-常時・非常時の上塩尻村
社会・経済組織との関連で-」日本村落研究
学会第54回大会、2006年11月4日、(単独)
於愛知県北設楽郡東栄グリーンハウス。

【図書】(計 2 件)

長谷部弘、高橋基泰、山内太編著『近世日
本の地域社会と共同性 近世上田領上塩尻
村の総合研究』(刀水書房、2009年3月、
編著、5、長谷部弘47-103頁・124-138頁・
255-270頁、村山良之11-22頁、山内太23-46
頁・104-123頁、高橋基泰171-254頁、田島
昇139-152頁、マーティン・モリス152-170
頁、総280頁)

日本村落研究学会編『近世村落社会の共同
性を再考する 日本/西欧/アジアにおける
村落社会の源を求めて』(日本村落研究学
会編・年報村落社会研究44、農文協発行、2009
年1月、長谷部弘pp.10-37、平井進pp.38-73、
村山聡pp.74-113、高木正朗pp.114-149、山
内太pp.150-183、伊丹一浩pp.184-207、高橋
基泰pp.208-237、藤井勝pp.238-265、総299
頁)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

長谷部 弘 (HASEBE Hiroshi)
東北大学・大学院経済学研究科・教授
50164835

(2)研究分担者

柘植 徳雄 (TSUGE Norio)
東北大学・大学院経済学研究科・教授
80281955

(3)連携研究者

佐藤 康行 (SATO Yasuyuki)
新潟大学・人文社会教育科学系・教授
40170790

國方 敬司 (KUNIKATA Keiji)
山形大学・人文学部・教授
70143724

高橋 基泰 (TAKAHASHI Motoyasu)
愛媛大学・法文学部・教授
20261480

山内 太 (YAMAUCHI Futoshi)
京都産業大学・経済学部・教授
70271856

平井 進 (HIRAI Susumu)
小樽商科大学・商学部・教授
30301964